U00_20260724

TLP:CLEAR

2026 年度
第 1 四半期レポート

2026 年 7 月 24 日

一般社団法人　Japan Automotive ISAC

内容

【第1章】　運営委員会からの活動報告

1．定時総会（会員総会･社員総会）

2026 年 6 月 18 日、品川フロントビル B1F とオンラインを用いて第 11 回定時総会を実施しました。前半セミナー、後半総会（＋懇親会）の構成で開催しました。

１）セミナー

当法人賛助会員･パートナー会員に登壇いただき、車のサイバーセキュリティに関係する幅広いテーマでセミナーを開催しました。

延べ参加者数：188 名（会場参加 87 名／オンライン参加 101 名）

２）総会／懇親会

社員総会では運営委員会をはじめ、各活動の実績と今後の取組を中心に説明し、議案を審議いただき、可決しました。その後の懇親会では、普段接する機会の少ない会員のみなさま同士が、親睦を深める充実した時間となりました。

総会参加者数：121 名（会場参加 68 名／オンライン参加 53 名）

総会「2026 年度方針説明」運営委員会
生川委員長

懇親会　（参加者 71 名）

2. 2026 年度第 1 四半期に入会いただいた新規会員

新規入会会員

＜シルバー会員＞ミネベア アクセスソリューションズ株式会社

＜シルバー会員＞SCSK 株式会社

＜賛助会員＞　Cloudflare Japan 株式会社

＜学術会員＞　後藤 厚宏（情報セキュリティ大学院大学 教授）

※2026 年 6 月 30 日時点の会員数　119 社＋学術会員 3 名

【第2章】　SOC からの活動報告

1．　2026 年度 第 1 四半期の概要

1） 脅威・脆弱性情報の報告件数

2026 年 4 月から 6 月の第 1 四半期おいて提供された週次情報レポートは、合計 134 件となりました。内訳は図 1 に示す通りです。

脅威・脆弱性情報は 98 件、業界動向情報は 36 件となっており、脅威・脆弱性情報の報告件数は 2025 年度第 4 四半期（69 件）と比較して増加しています。

なお、車両に関連する新たな重大な脅威・脆弱性情報やインシデントの発生は確認されていません。

①	脅威・脆弱性情報	98 件　（2025 年度第 4 四半期：69 件）
②	業界動向情報	36 件　（2025 年度第 4 四半期：42 件）

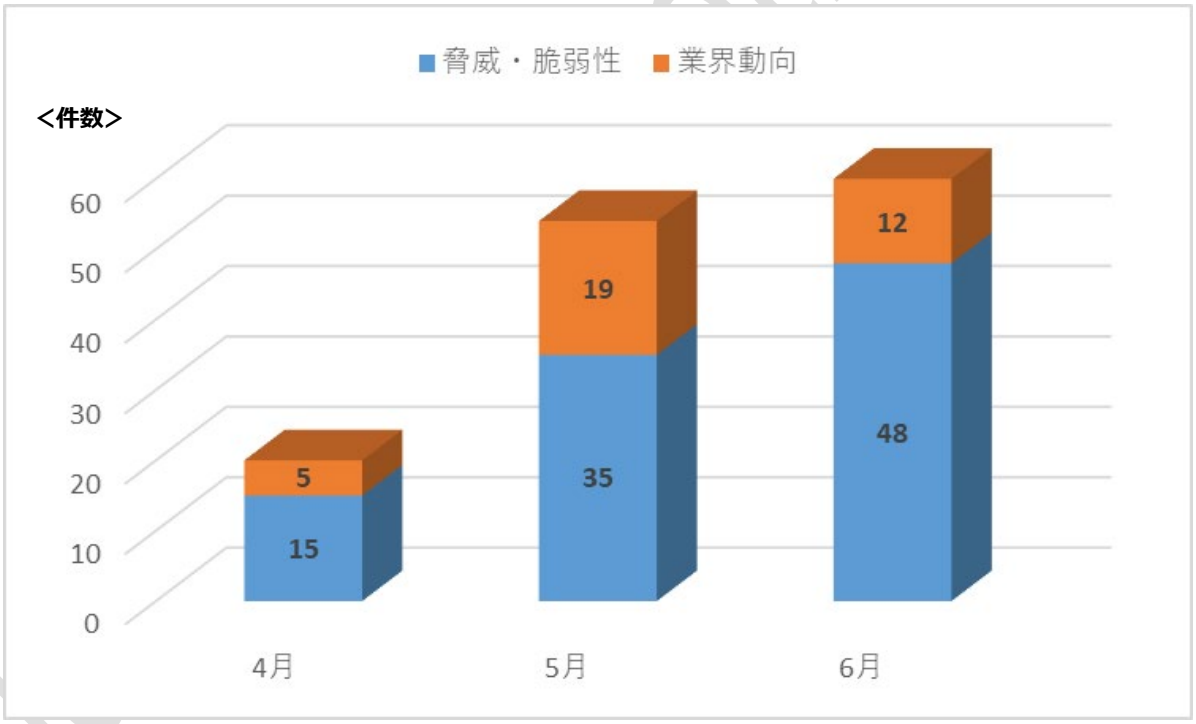

図 *1*　週次情報レポート　提供件数

※脅威・脆弱性情報件数は、自動車に係わる情報のみであり、かつ同一案件を除く

2） 脅威・脆弱性情報レベル

第 1 四半期に報告した脅威・脆弱性情報の分類は、図 2 に示すとおりです。

重大情報に該当する案件はありませんでしたが、一方で要注意情報は平均 21 件／月となり、2025 年度第 4 四半期の平均 13 件／月と比較して増加しています。

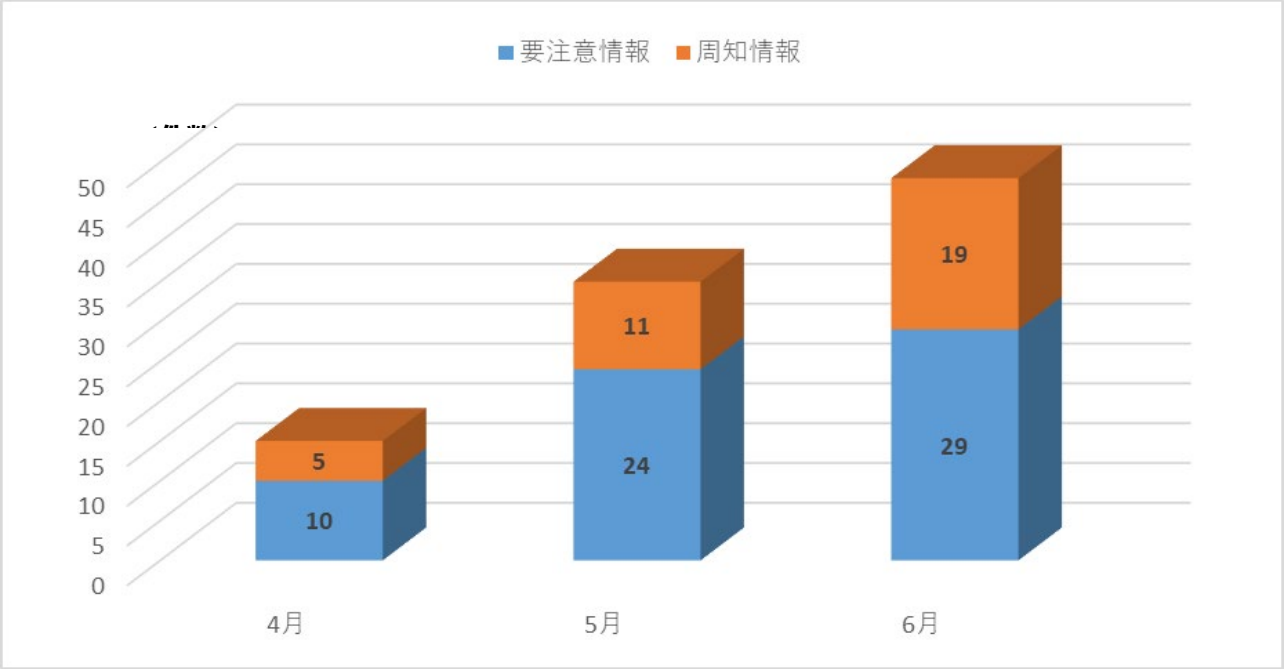

図 2 脅威・脆弱性情報 レベル別件数

＜参考＞

※1.要注意情報：

自動車への関連性があるが影響度・攻撃可能性が高くない脅威・脆弱性情報

※2.周知情報：

注意すべきセキュリティニュースなど動向として認識すべき情報

※3.重大情報：

自動車への関連性があり、かつ影響度・攻撃可能性が高い脅威・脆弱性情報

3） 脅威・脆弱性情報の提供ベンダー2 社間での同一案件の比率

2 社から提供される脅威･脆弱性情報における同一情報の比率は、図 3 に示すとおり平均約 14%となっており、2025 年度第 4 四半期（約 15%）とほぼ同等の結果となりました。

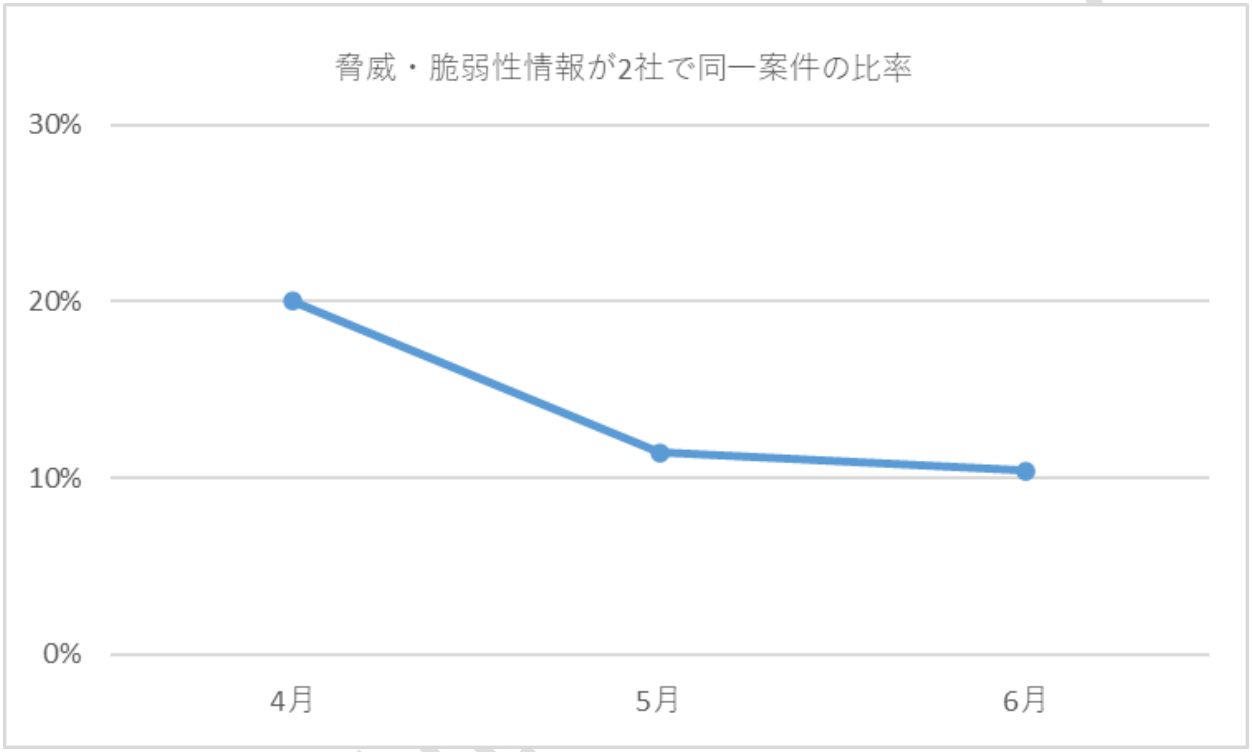

図 3 脅威･脆弱性情報　同一案件比率

【第3章】　技術委員会からの活動報告

１．　はじめに

技術委員会は、2026 年 4 月より 2WG/6SWG/1TF に再編され、2026 年度の計画に則って活動を推進しています。

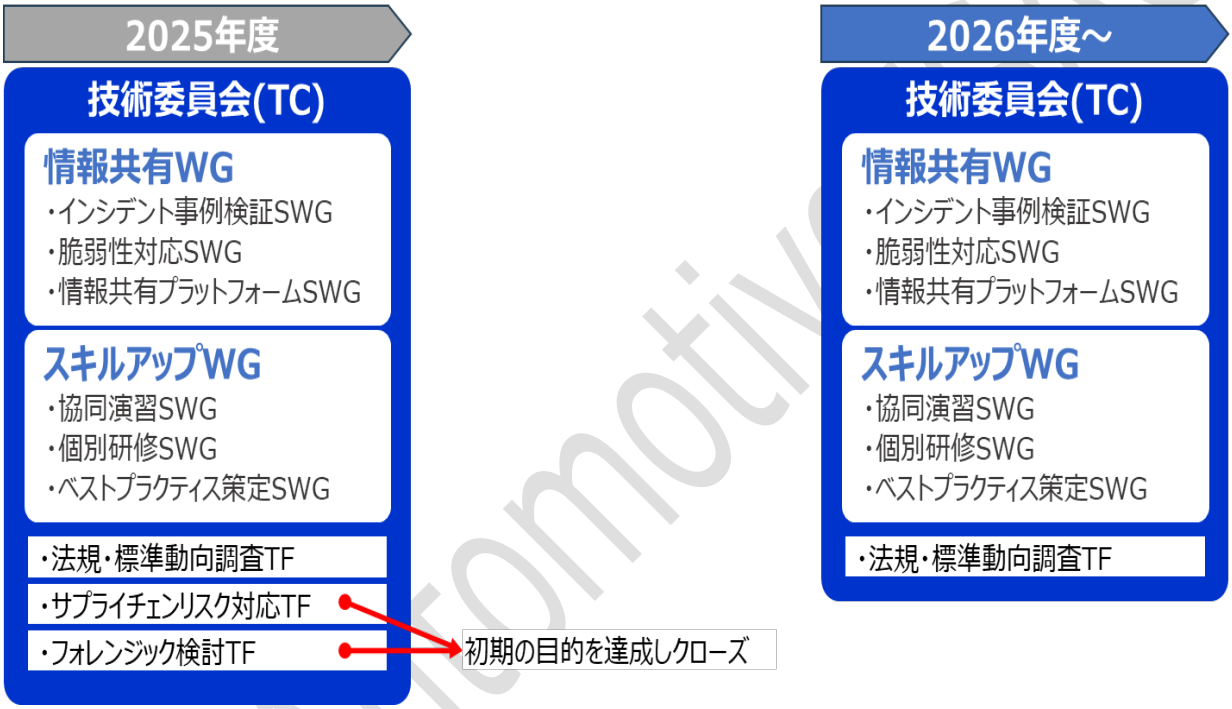

図 1：2026 年度　技術委員会活動体

今回は、その施策の１つである、第７回技術委員会＆CSECC 合同活動報告会を 5 月 27 日（水）に実施しているので、その様子を本章のトピックとして報告します。

技術委員会では、活動報告会等を通して各活動における成果に加え、新たな取り組みを紹介することで、会員に価値・魅力を示し参加を促すことで持続的な活動としていきます。

以下に 2026 年度の活動計画と実績、トピック報告を記載します。

2． 2026 年度活動計画と実績報告

1）2026 年度活動計画

表 1 ：2026 年度実施項目

実施項目
1)技術委員会の戦略策定 業界に必要なサイバーセキュリティ対応能力の強化に向けた戦略の策定
2)成果物の発行 技術委員会傘下 6 つの SWG と TF 活動を通じて、参加会員の活発な意見交換やナレッジ共有を継続すると共に、参加各社のサイバーセキュリティ対応能力の強化に貢献出来る活動の継続

本計画（実施項目）に基づき、具体的な目標と取り組み方策を明確にして実行し、技術委員会活動を更に発展させていきます。

2）技術委員会活動成果物

表 2 ：活動成果物一覧（発行成果物と発行予定）※太枠は第 1 四半期分

時期	成果物
2026 年 5 月	・第 7 回活動報告会（各 SWG/TF 活動報告書）
2026 年 6 月	・サプライチェンリスク対応 TF 成果まとめ_クルマのサプライチェーンにおけるサイバーセキュリティの取り組み_改訂版（TC 内公開） ・サプライチェンリスク対応 TF 成果まとめ_クルマのサプライチェーンにおけるサイバーセキュリティの取り組み付属書（TC 内公開） ・サプライチェンリスク対応 TF 成果まとめ_クルマのサプライチェーンにおけるサイバーセキュリティの取り組み_想定事例集（TC 内公開）
2026 年 7 月	・協同演習の開催（@2026/7/21） ・製品セキュリティ品質保証プロセスにおけるインシデントレスポンスの手引き_ver1.10（TC 内公開） ・初学者の虎の巻 ver.2（TC 内公開）
2025 年 9 月	・インシデント事例に基づいた技術レポート#1 ・脆弱性分析レポート#1 ・協同演習速報
2026 年 12 月	・第 8 回活動報告会（各 SWG/TF 活動・実績報告書） ・初学者の虎の巻 ver.2（一般公開） ・インシデント事例に基づいた技術レポート#2 ・協同演習レポート
2026 年 3 月	・インシデント事例に基づいた技術レポート#3 ・US-Auto-ISAC BP 取込み（ガバナンス）（TC 内公開） ・US-Auto-ISAC BP 取込み（SDLC）（TC 内公開） ・脆弱性分析レポート#2 ・脆弱性対応帳票＆ガイド（TC 内公開）

2026 年度も成果物を社内外へ展開していきます。

3. 【トピック報告】第７回活動報告会（*2026*／５／*27* 開催）

１）目的･背景

J-Auto-ISAC 加入メンバーを対象として、SWG と TF 活動の成果物、情報の共有を目的に、23 年度から年間 2 回のイベントとして「技術委員会活動報告会」を開催しています。昨年度より、技術委員会＆サイバーセキュリティエコシステム構築センター(CSSEC)の合同活動報告会としての開催となりました。

報告会では、活動全体像と各 SWG の関係性、成果物に関する詳細説明（成果物発表）、更に各 WG/SWG/TF の本年度の活動内容と目標に焦点をあてた構成としました。

第７回活動報告会：2026 年 5 月 27 日（水）@品川フロントビル

２）内容

下記の通り各 WG／SWG の活動内容を報告しました。

◆CSECC 活動紹介

①SBOM-WG： 関係団体との連携活動計画、SBOM への取り組み

②セキュリティ人材育成 WG： スキルマップ紹介

③グローバル連携 TF： 新生グローバル連携 TF 紹介とメンバー募集

◆技術委員会活動報告

情報共有 WG

①インシデント事例検証 SWG： 2026 年度活動計画

②脆弱性対応 SWG： 2026 年度活動計画

③情報共有プラットフォーム SWG： 2026 年度活動計画

スキルアップ WG

① 協同演習 SWG： 2026 年度協同演習参加者募集

② 個別研修 SWG： 初学者の虎の巻

③ ベストプラクティス策定 SWG： US Auto-ISAC 文書取込みによる新規文書作成

今回は上記に加え、現地参加者だけの特典として、OEM 企業のエキスパートによるソフトウェアアップデートに関する特別講演（UN-R156 解説と SUMS）が実施されました。また初のネットワーキングが実施され、コーヒーブレイクの時間に加え、会場参加者の間での意見交換、交流の場を提供することができました。

今回の参加者は、会場参加 66 名、オンライン参加 127 名、ネットワーキング参加 56 名となり、前回報告会に対し、増員となりました。

【第4章】　CSECC 活動報告

1．　はじめに

サイバーセキュリティエコシステム構築センター（以降、CSECC）では、自動車業界全体のサイバーセキュリティ対応能力を中長期的な視野で底上げすることを目標に、日本自動車工業会（JAMA）、自動車技術会（JSAE）、JASPAR、日本自動車部品工業会（JAPIA）、Auto-ISAC などの業界団体と連携し、抜け漏れのない CS 品質向上活動の実現を目指しています。

現在、CSECC 傘下には 2 つのワーキンググループ（WG）があり、セキュリティ人材育成 WG には 23 社から 27 名、SBOM-WG には 35 社から 50 名が参加しています。また今後活動開始予定のグローバル連携 TF の活動準備を鋭意推進中です。これらの WG や TF では、業界連携に必要な成果物の策定を行うとともに、参加メンバーによる実務レベルでのナレッジ共有と意見交換の場を提供しています。

今回は 2026 年度の活動計画、及び 5 月 27 日に開催した第 7 回技術委員会＆CSECC 合同活動報告会の様子を本章のトピックとして報告します。

2．　2026 年度の CSECC 活動計画について

まず 2026 年度 CSECC 活動方針は昨年同様に「自動車業界のサイバーセキュリティ品質向上に向けた業界団体連携活動の推進」ですが、今年度の目標は一歩踏み込み、「具体的アイテムに関して業界団体連携活動の推進」に加え、具体的な「成果物の策定」を掲げております。

具体的な取組みとして、まず SBOM に関しては※4J 活動で検討中の具体的ユースケースをカバーするプロセスやリファレンスアーキテクチャ策定に加え、SBOM 技術仕様のドラフト作成や PoC の実施したうえで SBOM 活用に関する文書（第 2 版）のリリースに向けた活動を行っていきます。

※4J 活動：JAMA・JSAE・JASPAR・J-Auto-ISAC による連携活動

次にセキュリティ人材育成についてはスキルマップ初版をベースに 4J 活動のスコープとすべく調整を開始しており、スキルマップに基づく教育体系や 4J 間での役割分担の整合を進め、J-Auto-ISAC における教育資料の策定計画策定に結び付けていく予定です。

最後にグローバル連携 TF ですが参加対象を北米 Auto-ISAC 参加企業限定から J-Auto-ISAC 会員企業に拡大し、対米連携成果をより広く会員企業へ還元すべく、米国の知見を会員企業の実務対応力強化へつなげていく活動としていきます。

3. 第 7 回技術委員会＆*CSECC* 合同活動報告会

J-Auto-ISAC 加入メンバーを対象として、技術委員会活動の情報共有や成果報告を目的に、2023 年度から年 2 回のイベントとして「技術委員会活動報告会」を開催してきましたが、サイバーセキュリティエコシステム構築センター(CSECC)の発足に伴い、昨年度より合同活動報告会として開催しています。
報告会の詳細については技術委員会パートで報告されていますので、CSECC パートについてのみ簡単に記載します。

CSECC からは各活動体のリーダより今年度の活動計画詳細を紹介しました。

① SBOM-WG： 4 J 関係団体との連携活動計画、SBOM への取り組み
② セキュリティ人材育成 WG：スキルマップ紹介
③ グローバル連携 TF：新生グローバル連携 TF 紹介とメンバー募集

また今回は現地参加者だけの特典として、サイバーセキュリティ活動と大きく関係のあるソフトウェアアップデートに関する特別講演（UN-R156 解説と SUMS）を OEM 企業のエキスパートをお招きして開催、会場参加者の間での意見交換、交流の場を大きく盛り上げることができました。

以上

一般社団法人 Japan Automotive ISAC

E-mail：info@j-auto-isac.or.jp

https://j-auto-isac.or.jp/